



上智大学創立 100 周年
上智短期大学創立 40 周年
上智社会福祉専門学校 50 周年



聖アロイジオ塾

No. 19

1. 上智大学最初の学生寮 聖アロイジオ塾

上智大学には、創立当初から学生寮があった。最初の寮として、旧赤星鉄馬邸と旧大島直久邸の一部が利用されていた。神父の指導の下に、学生に自主的な規律ある寮生活をさせ、人格の陶冶に資することが目的であった。大学創立者のひとりアンリ・ブシェー神父は、1913年4月20日の日記の中で、「赤星と大島の家の寝室に泊る学生たちは塾祭を催し、よく喋り且つ騒いだ」と書いている。また、ヨゼフ・ダールマン神父は1913年の11月には、26人もの学生が寮生活を送っている、とローマのイエズス会本部に報告している。



最初の学生寮となった旧赤星鉄馬邸

学生寮設立当初は、上智大学の学生だけでなく、他の大学の学生も入寮できた。塾の同窓会名簿を見ると上智大生が最も多いが、ほかに東京帝大、東京外大、慶応義塾大、東京経済大、日本大、東京工大などの日本の学生だけでなく、ボン大学、コーネル大学などからの留学生も入寮していた。初期には管理もずさんであったため、1919年には上智大生と東京帝大生、信者と未信者との間に不和が起こり、一時閉鎖されたことがあった。翌年には再開されたが、それ以降はカトリック信者と聖職を目指す求道者だけに入寮が認められることになった。



1932年に完成した新寮「聖アロイジオ塾」

1925年には旧大島館を改修して、寮の収容人



旧赤星邸を解体移築(1930年)

数は30名ほどになった。当時は旧大島館を南寮とし、旧赤星邸を北寮と呼んでいた。学生寮全体が「アロイジオ塾」と名づけられたのは、1920年10月31日のことである。『上智大学史資料集第二集』は、ヨゼフ・ダールマン神父が、寮に住む東京帝大や慶応義塾大の学生たちの「カトリック学生連盟」の発足祝賀会において、初めて「聖アロイジオ塾」という寮名を使った、と伝えている。その後の1926年の「カトリックタイムス」の新聞記事には、「上智大学構内の聖アロイジオ塾」の見出しで記事が掲載されている。

1930年6月に1号館の建設が始まった。同時に新たな寮の建設が進められ、ほぼ同じ時期の1932年の7月に、木造3階建の新寮が竣工した。この新寮建設は1号館建設計画に組み込まれていたため、マックス・ヒンデル氏の設計で工事監督がイグナチウス・グロッパー修道士であった。旧赤星邸を解体、移築して新館と隣接するようにした。以来、この新寮と旧寮をあわせて「聖アロイジオ塾」と呼んだ。収容人員は40人であった。

2. 聖アロイジオ塾での寮生活

1951年から55年まで寮生活を送った中島貞夫氏によると、当時の塾生活は、朝6時に起床し、クトゥルハイム聖堂と聖イグナチオ教会でミサの従者を務めるのが日課であった。7時30分から新館1階の食堂で朝食をとった。夕食は午後7時からで、夕食後はほかの部屋への出入りが禁止された。9時には終礼があり、食堂で「Salve regina coelitum」などの祈りの歌が歌われていた。11時消灯。

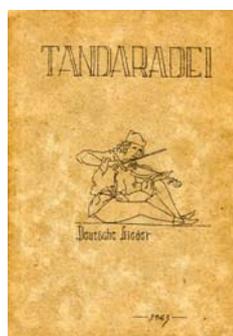


1951年の新館食堂での塾祭

またコーラスも盛んで、塾生は毎週水曜日の午後6時から食堂に集まってドイツ民謡や聖歌などを歌っていた、という。聖アロイ

ジオの祝日である6月21日には塾祭が行われ、パントマイムの寸劇などが披露された。年に一回は旅行が企画され、1948年に出来たカマボコ・ハウスに起居していた学生との間で野球の試合も行われた。

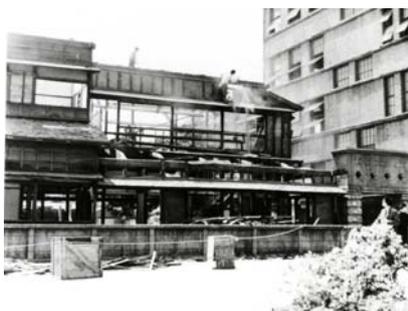
作家の遠藤周作は、上智大学予科時代に聖アロイジオ塾に住んでいた。池長潤大司教や韓国で著名な金寿煥枢機卿も、この塾で生活していた。また日本航空社長であった利光松男も塾生であった。



塾ではドイツ民謡や聖歌などのコーラスがよく行なわれていた。左は使われていた「歌の本」(1943年版)。下は食堂、よくコロケが食卓に載った

3. 聖アロイジオ塾から新学生寮へ

聖アロイジオ塾は、東京大空襲での戦災を免れたが、1957年に新たな学生寮が設立されたのを機に、塾生はカマボコ・ハウスの寮生とともに新しい学生寮に移った。そして1961年に聖アロイジオ塾は、解体された。



旧聖アロイジオ塾(赤星邸、写真上)は1961年5月に、新聖アロイジオ塾(写真右)は、同年7月に解体



聖アロイジオ塾の名前の由来

塾名の聖アロイジオは、イエズス会の聖人の名前で聖アロイジオ・ゴンザガ(1568-1591)からとられている。聖アロイジオは、神への信仰と隣人愛に生きた青年の模範として、教皇ベネディクト13世から1726年に聖人として認められた。イタリアのカステイリオーネの出身で、貴族の名門の家柄に生まれたが、当時の退廃的な社会の中で修道会に入会し、ひたむきに神を愛し、隣人に奉仕した。1591年にイタリア全土でペストが猛威を振ったとき、死者の埋葬や病院での救援活動をしているときに罹患して23歳の若さで帰天した。そのために、青少年の守護聖人となった。6月21日が祝日で、毎年その日に聖アロイジオ塾の同窓会が行われている。